

## 閉会挨拶

長浜博行 参議院議員  
JFPF 副会長  
日本

皆様4日間の会議と視察、本当にお疲れ様でした。皆様のご協力のおかげで非常に充実した内容になったことと思います。

国際人口問題議員懇談会（JFPF）の事務局を務める APDA は、AFPPD の議長事務所として、これまで日本とアジアで 30 年以上にわたり、継続して人口と開発に関する国会議員会議や視察事業を実施して参りました。今回の事業は 2009 年から取り組んできたプログラムの最終年として大きな意味を持つものです。

増子副会長の、基調講演にありましたように、本年 JFPF は 40 周年を迎えました。この 40 年で世界は大きく変化しました。世界人口は約 40 億人から 72 億人に増加し、経済活動の活性化もあって当時の 2 倍以上の負荷をこの地球環境にかけています。アフリカの人口は 4 億人足らずであったものが、現在では 10 億人を超えていると考えられています。

また 40 年前には世界の人口問題といえば、人口増加をいかに抑制するかという問題であり、一部日本などの国では人口学者によって高齢社会のインパクトが警告されていましたが、人口問題に対する対処は、ほぼ人口増加をいかに抑制するかという問題に集約されていました。

現在日本は世界で最も高い高齢化率の高齢社会となり、それへの対処が喫緊の課題となっています。日本だけでなく東南アジア諸国でも高齢社会の問題が近い将来の課題となっております。一方でこのアフリカの地のように人口増加への対処が重要な地域もあります。40 年間の努力の結果として、人口問題と一口で言えないほど多様化したのです。

この事業が始まる 2 日前に、ニューヨークの国連本部で ICPD 行動計画の達成年を受けて国連人口特別総会が開かれ、ICPD 行動計画の進捗を踏まえて、2015 年以降の国際的開発目標に組み込むべき人口分野の国際的な合意が形成されております。

ICPD を契機として、人口問題への対処が人口増加率への対処ではなく、一人ひとりの生活の改善を目的とするものとなりました。その観点から、妊産婦死亡率の低下や、乳幼児死亡率の低減のための対処が人口プログラムの中心となりました。

現在、人口プログラムの分野でほとんど取り上げられることがなくなりましたが、ICPD の全体の方向性や理念を示す、序文や原則には人口問題を持続可能な開発の視点から扱うということが明記されています。

いまのアフリカにこれを置き換えれば、アフリカという大地の自然環境の中で生まれてきた人たちが人間としての尊厳を持って、人間らしく生活できるようにするというのが ICPD の基本的な考え方であったわけです。これは何もアフリカだけのことではありません。この限られた地球環境の中で生きざるを得ない私たちすべてに問われている課題です。

2月に実施されましたウガンダの会議では、人口増加と食糧安全保障の問題も宣言文に盛り込まれました。生まれてきた人たちが十分に食べることができる、これはすべての社会の基礎です。そして環境条件に制約がある以上、無限に食料を増産していくことができないことも事実であり、次の世代に責任を持ついま生きている私たちが大局的な見地から適切な対処をしていくことが絶対に必要なのです。

かつて人口と開発に関する国会議員活動の中心は、これらの問題に対する啓発でした。しかし JFPF では数年前から活動の方針を「啓発から実質的な役割へ」と変化させました。かつては国会議員が人口問題にかかわる意義すら理解されていなかったのですが、これまでの皆さんの努力で国会議員の間に人口問題の重要性はだいぶ周知されてきたと思います。

そして、各国の予算や人員を人口分野に向けることに対して明らかな反発というのはほとんど姿を消したと思います。もちろん、国連機関などの立場から言えばまだまだ資金や人材が十分ではないということにはなるとはなるとはありますが、40年間前を振り返れば隔世の感があるとは、この問題にかかわってきた先輩議員の弁です。

人口プログラムにおける議員活動の成功を受けて、国会議員の特性を踏まえて、私たちがどのような役割を果たすべきかが課題となりました。今回のプログラムはまさしく、国会議員という特性から見た人口問題・持続可能な開発の問題を解決に向けての国会議員の果たすべき役割を明確にするものでした。

一連の協議を通じて、わたくしたちが未来に対しての責任を果たし、人口問題を解決に向け、持続可能な社会を作るためには国会議員の役割が本質的に不可欠であるということが明確になったと思います。

そして、ここにご参加の皆様のご協力をいただき、国会議員活動の地域間協力の在り方や、進むべき方向性、そして将来に向けた具体的なプログラムの可能性が明らかになったと思います。

**JFPF** としても皆さんと手を携えて、この国会議員の役割を強化し、ネットワーク化を進め、そして国会議員活動の活性化のために最大の努力をしてみたいと思います。

ご報告ではございますが、本年 11 月には **JFPF40** 周年記念事業と第 30 回人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議（通称：**APDA** 会議）を東京で開催する予定となっております。

行政府でも、開発援助機関でもない、私たち国会議員がその活動を独自性をもって積極的に行っていくことは難しい側面があります。しかし私たちには、国会議員しか果たしえない重要な役割があります。

私たちの未来をよりよいものとするためにも、将来に責任を持つためにも国会議員が声を上げて、その役割を果たしていきましょう。そして責任ある選択を行っていこうではありませんか。

またこの活動を通じてお目にかかれることを心より楽しみにしております。